

J R 連合結成 20 周年を迎えて

2012 年 5 月 18 日
日本鉄道労働組合連合会
(J R 連合)

本日、5 月 18 日、J R 連合は J R の代表産別として結成 20 年を迎えた。

私たち J R 連合は、1992 年 5 月 18 日の発足以降、すべての J R に民主的な労働組合と健全な労使関係を築くため、民主化闘争を展開する中、三鷹電車区事件および浦和電車区事件の勝利を果たすとともに、組織の強化・拡大を図ってきた。また、産業別労働組合の重要な役割である政策課題においても、長期債務追加負担問題や各種税制措置問題、さらには利益剰余金問題などについても大きな成果を取めるなど、政策力の向上を果たし、全国各地に約 8 万人もの仲間が加盟する J R の代表産別としての確固たる地位を築き、本日結成 20 年を迎えることができた。あらためて、各々の立場で奮闘いただいた全組合員、そして課題解決にむけご尽力いただいた関係各位、先輩諸氏に御礼を申し上げる。

一方で、2005 年 4 月 25 日に J R 福知山線脱線事故を発生させてしまったことについて、チェック機能を発揮できず、事故を未然に防げなかった労働組合も責任を共有するとの認識に立って、安全確立を最重要課題に位置づけて運動を展開してきた。私たちは、震災の教訓と併せて、安全を確保し人命を守ることの重要性をあらためて認識し、最優先課題である鉄道の安全確立の取り組みをさらに強化する必要がある。

さらに、国鉄改革の残された課題である J R 三島会社・J R 貨物の自立経営確保にむけた経営支援策、そして地方路線と地域の活性化をはじめとする政策課題、J R からの革マル派追放と J R 労働界の一元化を果たすという組織課題を一刻も早く解決し、国を支える基幹インフラである J R の持続的な発展と役割の発揮へ将来展望を切り拓かなければならない。

そして、東日本大震災の教訓に立ち、危機管理や防災・減災対策の充実はもとより、国をあげて、新たな環境変化を見据えた持続可能な社会や経済を構築し、強化することが求められている。J R 連合は、この復興を通じて、公共交通として果たすべき J R の役割や目指すべきビジョン、また、「絆」や「支え合い」の担い手としての労働組合が果たすべき役割を再認識し、20 周年という節目を、新たな出発とする機会にしたいと考える。

連合は効率や競争優先の価値観を改め、「働くことを軸とする安心社会」の実現を訴えてきた。今こそ、私たちが求めてきたパラダイムの転換が求められており、国をあげて社会の将来像を確立し、実践すべき時機にあり、労働組合をあげてその実践に取り組んでいかなければならない。

J R の輝ける未来を働く労働者と共に築き上げるとともに、J R 関係労働者の雇用、労働条件を維持、改善させていくべく、J R の責任産別として結成 20 周年を迎えた今、更に運動を前に前に推し進める決意を明らかにする。